

公開実用 昭和60-171868

⑨日本国特許庁 (JP)

⑪実用新案出願公開

⑫公開実用新案公報 (U)

昭60-171868

⑬Int.Cl.⁴

B 65 D 83/14

識別記号

庁内整理番号

6564-3E

⑭公開 昭和60年(1985)11月14日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮考案の名称 吸気用缶詰製品の容器具

⑯実 願 昭59-61205

⑯出 願 昭59(1984)4月25日

参考案者 水牧 勝美 鎌ヶ谷市鎌ヶ谷704-3

参考案者 若杉 信行 野田市野田677-1 ローズハイツB-210

⑰出願人 株式会社 柏化学工業 東京都中央区日本橋小綱町8番4号

明細書

1. 考案の名称

吸気用缶詰製品の容器具

2. 実用新案登録請求の範囲

作動ボタンを付した吸気用気体を発生また内蔵する缶と、作動ボタンを保護するキャップと、缶とキャップとを連結する管からなり、キャップの下部裾辺の一部がくびれ状の切込みがなされていることを特徴とする吸気用缶詰製品の容器具。

3. 考案の詳細な説明

本考案は吸気用気体を簡便に携帯し使用可能な様に工夫された吸気用缶詰製品の容器具に関するものである。

吸気用気体とは、麻酔用亜酸化窒素・エーテルおよび呼吸用酸素、また喘息・鎮咳剤はそのミストを含む担体ガス等が挙げられる。麻酔用は緊急的に使用が必要な場合があり、また酸素は酸欠状態また有毒ガスの充满した場所において使用されるものであり、また之を呼吸してアロマテラピイ

的に気分爽快となる等の目的で使用されるものである。

これら目的には、正式に医療的に病院等の設備では、規格上高圧用ガスボンベを用いているが重量となるをまぬがれず緊急用また携帶用には簡易な器具の望まれるところである。

本考案は、一般にエアゾール用耐圧缶また簡易ボンベ用耐圧缶を應用すれば普遍的であり従って安価に提供し得ることに着目した。耐圧缶にはバルブと称する作動弁が内蔵しておりボタンを押すか回転または押し倒すことによってバルブが作動し内容物が噴出する。前記の喘息剤では定量バルブを使用する。耐圧缶には吸気用気体を圧縮充填するか、吸着剤に吸収させて収納しており、また液化ガスと共に薬剤を充填してある。また反応発生する方法として例えば過酸化物より酸素の発生する機構のものも考えられる。

耐圧缶に之等吸気用気体を充填した製品は従来より為されているところであるが、之を吸入用として噴出使用するときは大気中に溢散し、利用率

が甚だ悪いので、本考案は効率よく吸氣用氣体を
攝取し得る様工夫したものである。

即ち、前記の簡易な耐圧缶においては、そのボ
タンを保護するためのキャップを付すことが定め
られているが、本考案ではそのキャップを利用して
て口・鼻に宛合う様な形状で切込みを入れたもの
を用い、前記ボタンの噴口とキャップとを細管で
連結することを特徴とするものである。

以下、実施例として図面によつて説明する。

第1図は、本考案の構成を示す外観図で、Aは
キャップが缶にセットされた状態、Bはキャップ
を取りはずした状態を示し、Iは吸氣用氣体が収納
されている缶、IIはキャップ、IIIは導結管である。
ボタンIを押すことによつて、Iに内蔵するバル
ブが開き吸氣用氣体は噴口aより溢出する。氣体
はaとキャップの連結口bと連結する導結管IIIに
よつて導かれ、キャップ内部に放出されることに
なる。キャップIIには切込み2が入つており、顔
面に宛合つたとき鼻柱の当りを避け頬・口周部に
密着し易いための考慮がなされている。エアゾー

ル耐圧缶に之等気体を圧入する工夫は従来為されてきたが、之を吸入用として噴出するときは空気中に溢散し、甚だ効率が悪いところ、本考案は効率よく吸気用気体を摂取し得る様に工夫したものである。

一般にエアゾールにおいては、そのボタンを保護するためのキャップを付すことが定められており、本考案ではそのキャップを利用して口・鼻に宛合う様に切込みを入れ、前記バルブとボタン噴口とを細管で連結することが、本考案の特徴である。

~~以下、図面によつて説明する。~~

~~第一図は、本考案全体の構成を示す外観よりみた図面で、Iは吸気用気体が収納されている缶、IIはキャップであり、A図はキャップが缶にセットされた状態、B図はキャップを取はずした状態を示す外観図である。ボタンを押すことによつてこれに連1に内蔵するバルブが開き吸気用気体は噴口aより溢出する。気体はIとIIに連結する細管IIIによつて導かれキャップの一端の連結口b~~

9行前
上記
記入

~~から内部へ放出することになる。キャップには切込み2が入れられており、顔面に宛合ったとき鼻柱を避け頬・口周部に密着し易いための考慮がなされている。~~

4行
削除

第2図は、本考案の別案のキャップを示す図面であり、C図はその横面から、B面は横正面から見た図面である。この場合の連結口bは円周部に開口しており、切込み2の上部に付してある。それは第2図は、本考案の別案のキャップⅡを示す図面であり、Cはその横正面から、Dは横側面から見たものであり、この場合連結口bは円周部の切込み2の上部に付してある。それはキャップをプラスチック成型する際金型取りのための考慮で、取付部品Nを別に作成し、キャップに嵌め込む様に工夫され、軟質材3は鼻柱・口周部とのあたりを和らげ密着性をよくするために取付けることもある。

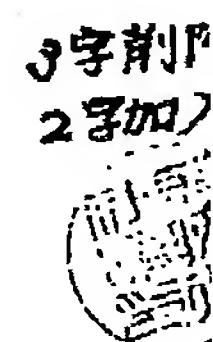
第2'図取付部品Nを上面E、側面F、正面Gから見た図面でcの切込によってキャップにはめ込みbによって導結管Ⅲと連結する。

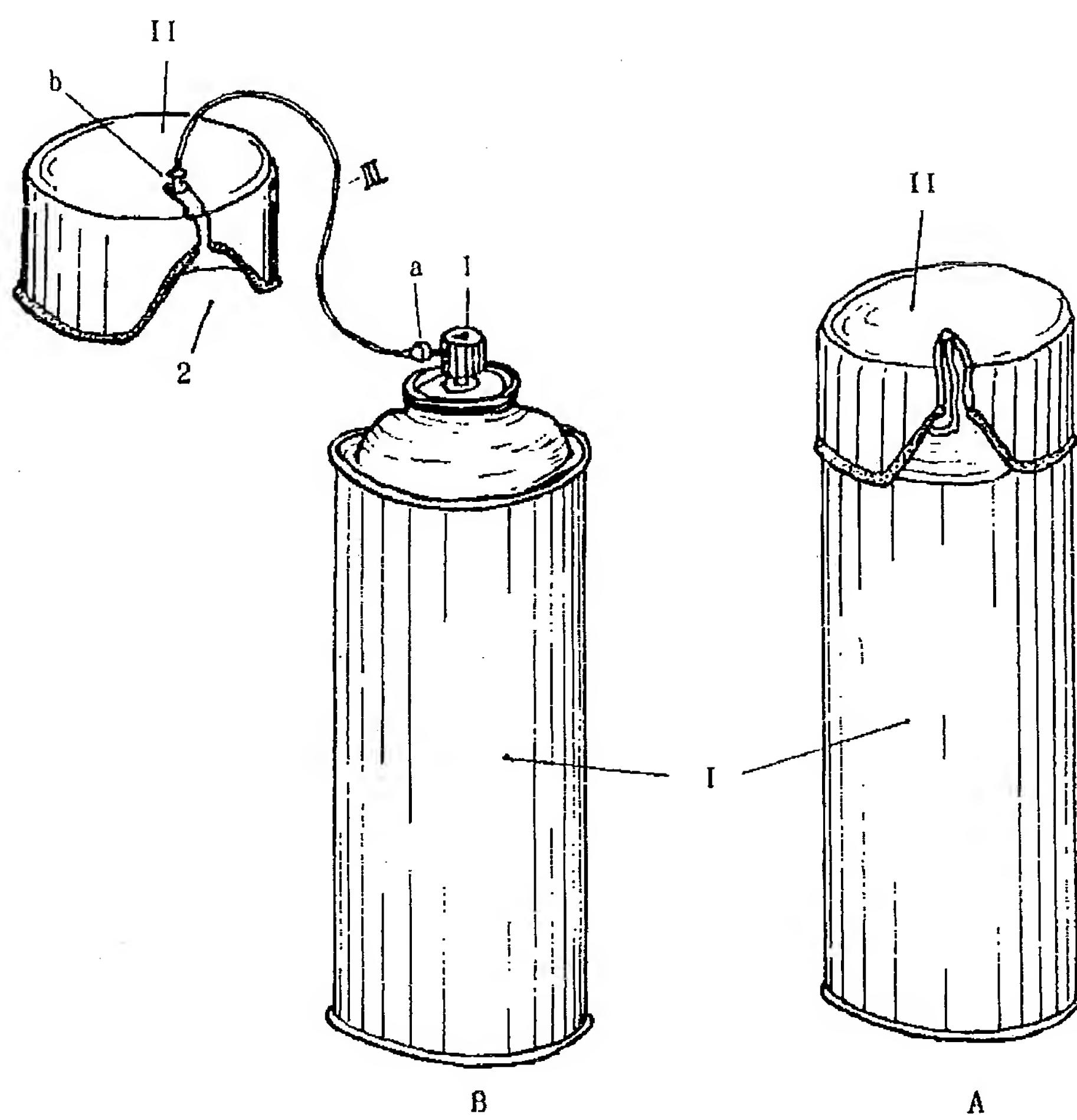
4. 図面の簡単な説明

図面は本考案の一実施例を示すもので、第1図は本考案の概要を説明するための外観図、第2図は本考案のキャップ部を示す側面図、第2図はキャップの取付部品を示す上、側、正面図である。

I : 缶、II : キャップ、III : 導結管、a : 噴口、
b : 連結口、1 : ボタン、2 : 切込み、3 : 軟質
材。

出願人 株式会社 柏化学研究所

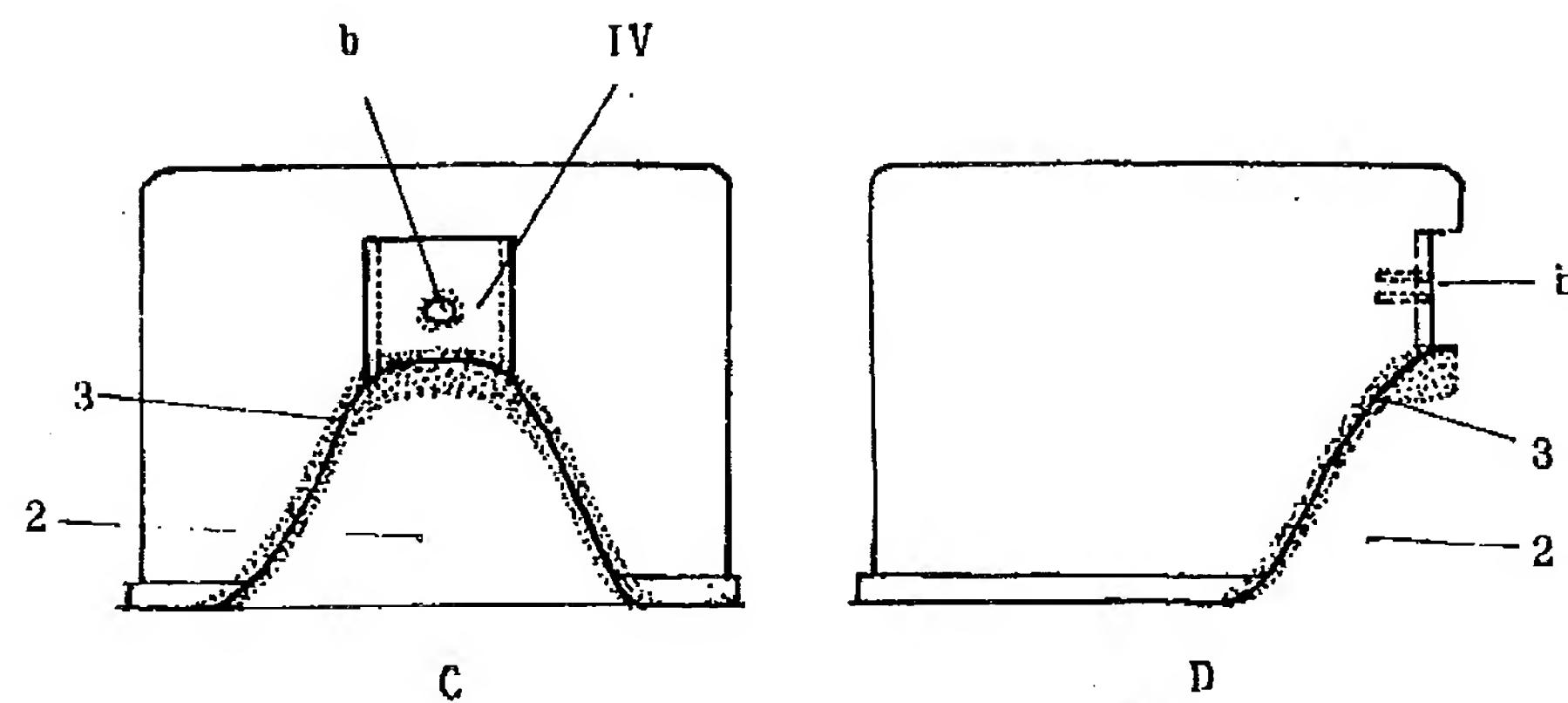




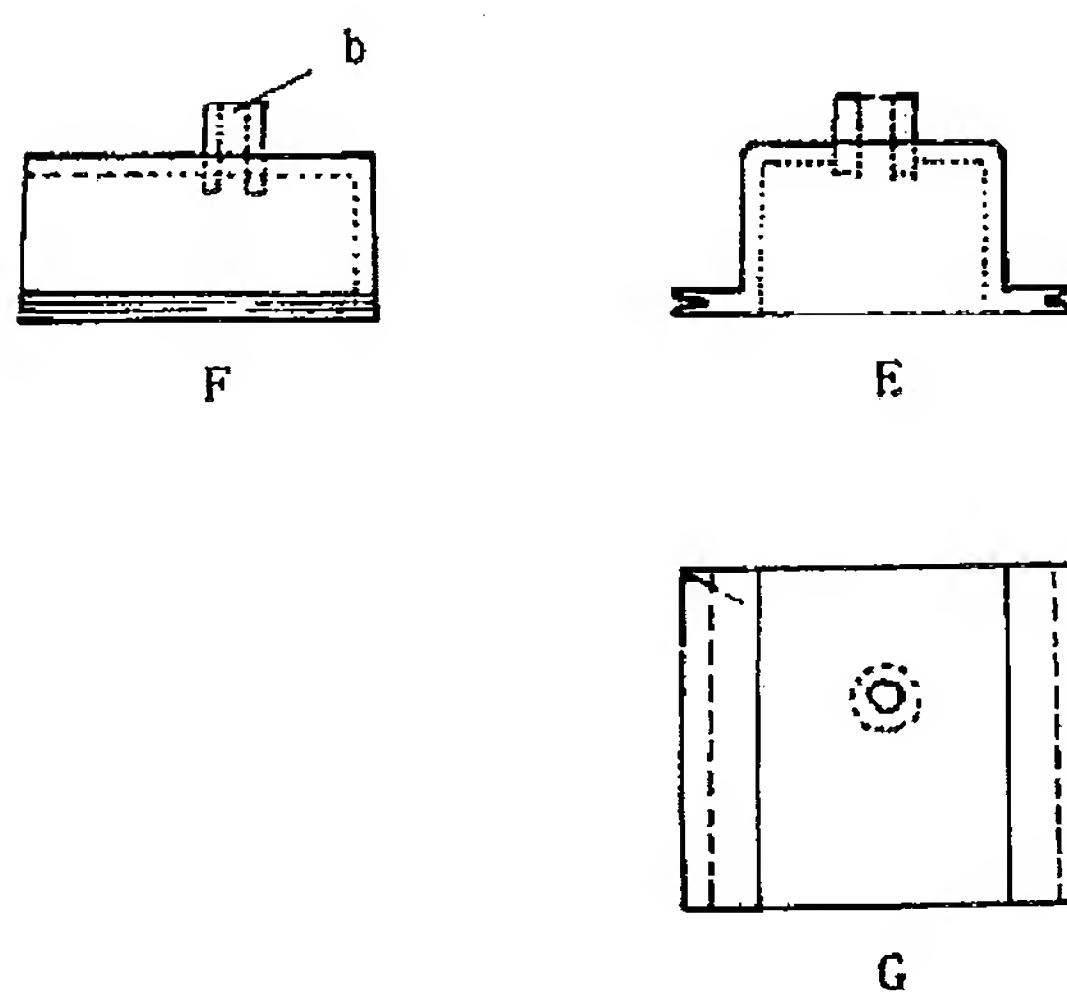
第 1 図

728
28

1971.11.14



第2図



第2図

実用新案出願人 株式会社柏化学工業



729

公開60-171868

公開実用 昭和60-171868

手続補正書（方式）

昭和59年 8月8日 送別用
特許庁長官 聞



特許庁長官 聞

1. 事件の表示

昭和59年実用新案登録願第61205号

2. 考案の名称

吸気用缶詰製品の容器具

3. 補正をする者

事件との関係 実用新案登録出願人

住所 〒103 東京都中央区日本橋小網町3番4号

氏名 株式会社 柏化学工業

代表者 相澤 哲郎



4. 補正命令の日付

昭和59年 7月 4日

(発送日 昭和59年 7月24日)

5. 補正の対象

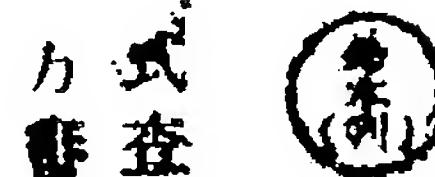
(1) 明細書中 (イ) 考案の詳細な説明の欄

(ロ) 図面の簡単な説明の欄

(2) 図面

6. 補正の内容

別紙の通り



(1) 第5頁中、下から第3行「第2'図以下を削除し、通り訂正する。

記

第2図中、E、F、Gは取付部品IVを各々上面側面、正面からみたもので、Cの切込によってキャップにはめ込み、bによって導結管と連絡する。

(2) 第6頁中、第1～8行「4.図面の簡単な説明」は全文次の通り訂正する。

記

4. 図面の簡単な説明

図面は本考案の一実施例を示すものである。

第1図は本考案の概要を説明するための外観図であつて

Aはキャップを取りはずしたときの外観図

Bはキャップをセットしたときの外観図である。

I：吸気用気体が収納されている缶

II：キャップ

III：導結管

公開実用 昭和60-171868

a : 噴口 , b : 連結口

1 : ボタン , 2 : キャップの切込み

第2図は本考案のキャップ部を示す図面である。

Cはキャップの正面図

Dはキャップの側面図

Eは取付部品の上面図

Fは取付部品の側面図

Gは取付部品の正面図である。

IV : 取付部品

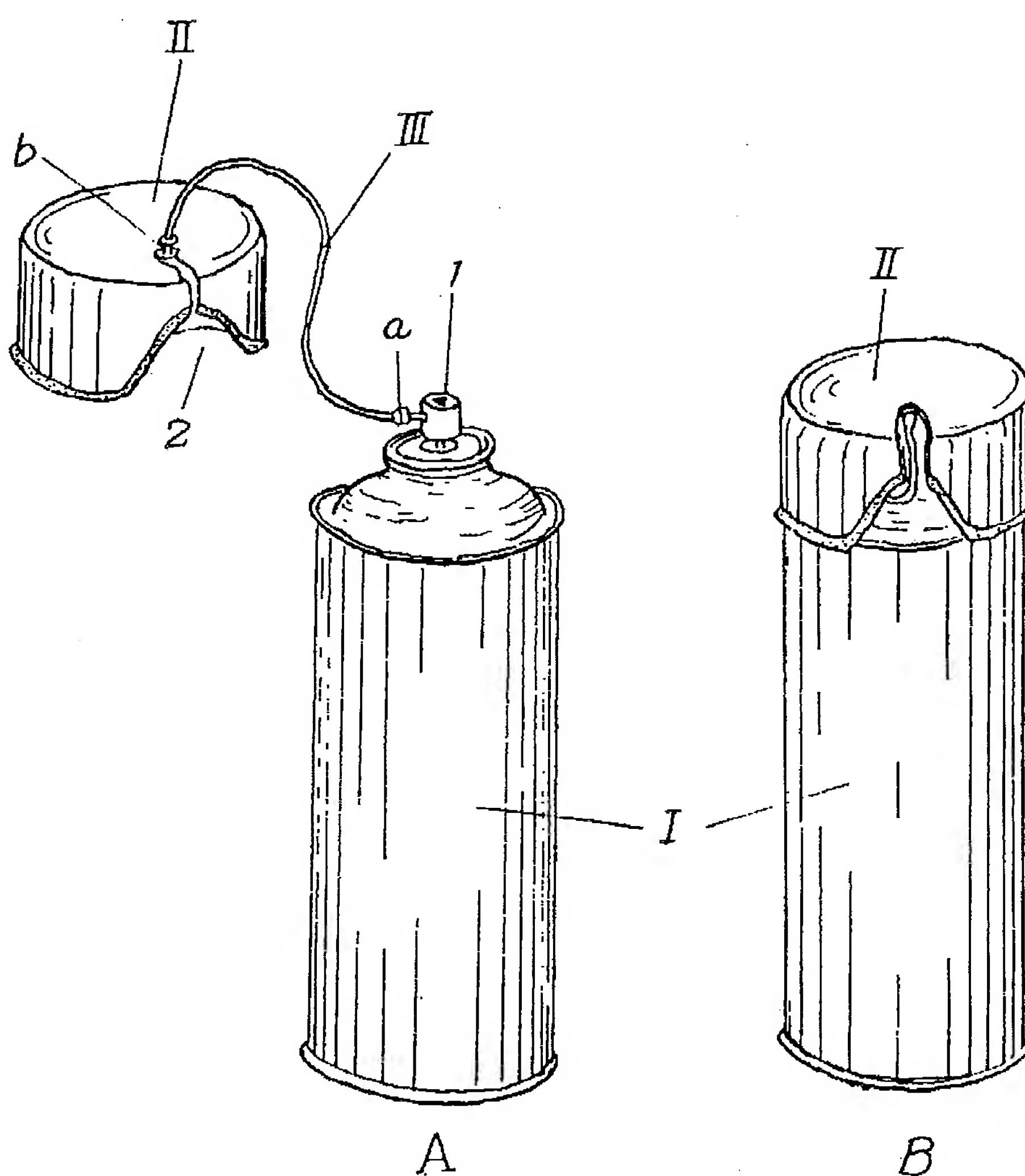
C : 取付部品の切込み

2 : キャップの切込み , 3 : 軟質材

(3) 添付書類 (2) 図面は別紙の通り訂正差替える。

以上

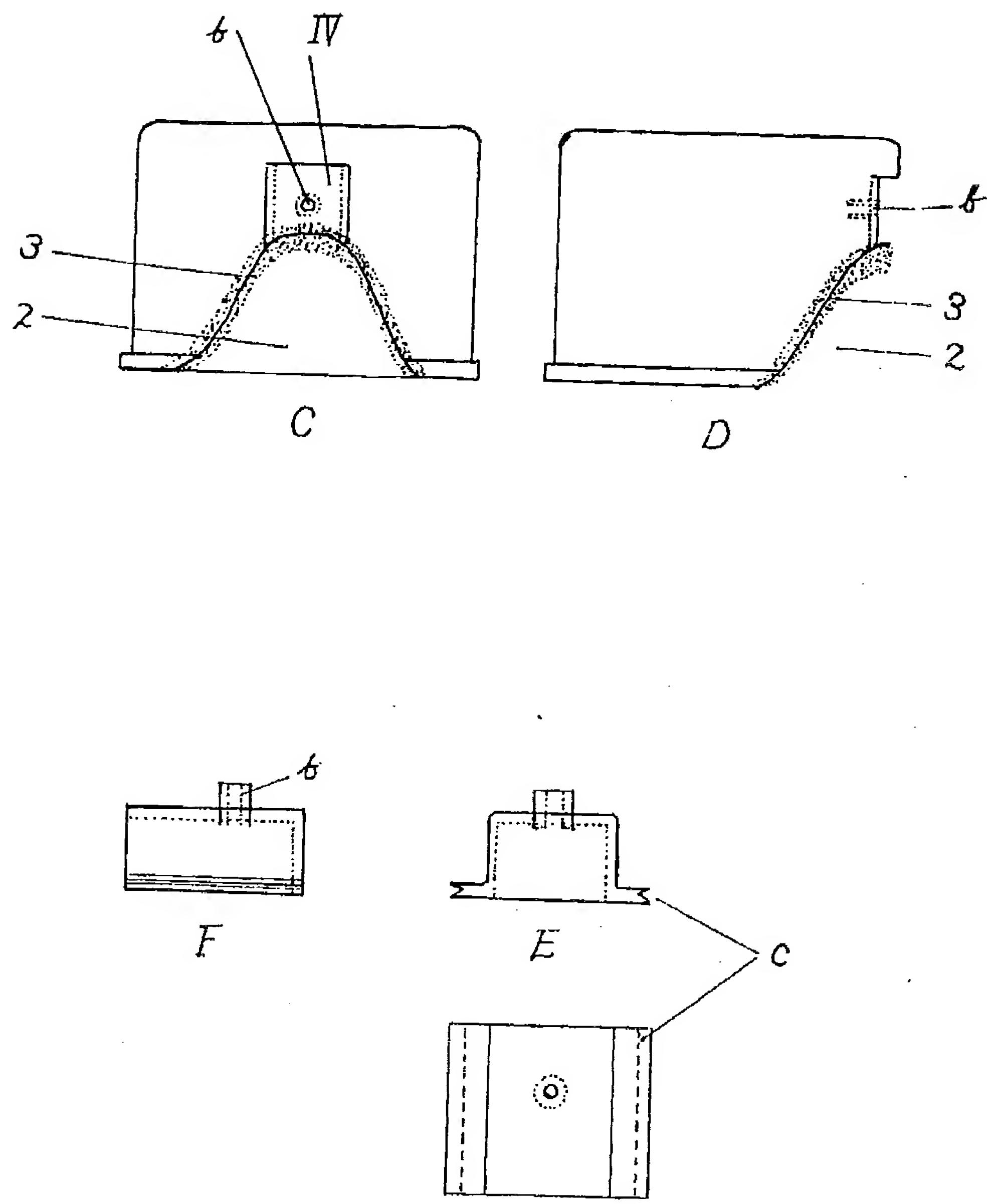




第 1 図

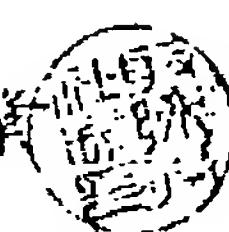
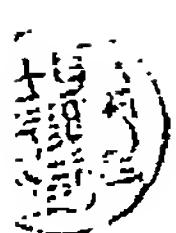
733
1998A 01
実開60-171868

公開実用 昭和60-171868



第 2 図

実用新案出願人 株式会社 柏化学工業



734

実用60-171868